

地域の魅力 演劇で発信 修学旅行生が短編劇作り～『沖縄タイムス』

沖縄修学旅行で実施したワークショップの様子が『沖縄タイムス』に掲載されました。

WSで沖縄の地域をアピールするプロモーション劇の制作に向け取り組む海城高校の生徒と沖縄の役者ら＝北谷町のザ・ビーチタワー沖縄

地域の魅力 演劇で発信

修学旅行生が短編劇作り

劇団チーム・スポット・ジャンブル(TSJ)が「コミュニケーショ」をテーマにした演劇ワークショップに取り組んでいる。県内の学校での実施にとどまらず、10月21、23日には、北谷町で海城中学高等学校(東京)と共同開催した「修学旅行ワークショップ(W.S)プログラム」を4回実施した。同校の高校2年生合計約320人がファシリテーター(進行役)の経験を積んできた沖縄の役者10人と共に短い劇作りに挑戦した。(学芸部・真栄里素球)

劇団TSJのワークショップ



「わったーシマがいちばん！ グランプリ」と題されたWSでは「ガイドブックにならぬ沖縄」をテーマに、那覇市楚辺、西原町、うるま市勝連など県内各地の魅力を発信する短いプロモーション劇を作る。WSの内容を知らされずに集められた生徒たちは、グループに分かれ、ファシリテーターの役者からその地元(シマ)の情報を聞き出し、りして、情報を集め、数分程度の劇を作った。

完成直前に新たな課題が出されるなどのハードルもあったが、生徒の細谷佳司さんは「ファシリテーターのエネルギーがすごい。地元愛の語りに圧倒された。西本耀さんも「地元の人ならではの場所を教えてもらったので、大人になったら自動車で行ってみたい」と感想を語った。

同校の中村陽一教諭は「頭の中にある『沖縄らしさ』を確認して帰るのではなく、沖縄の人と触れてほしい」と話す。中高一貫の進学校として知られる同校は、中学の段階から演劇のWSを取り入れている。中村教諭は「答えのない問いに取り組み、自分で課題を見つけて解決し、他者と協力していける力を付けた」と狙いを説明した。

TSJは2011年から演劇WSを実施し、学校だけでなく、社会福祉や地域創生をテーマにしたWSも考案している。修学旅行WSの実施は今回が初めて。監修したWSデザイナーの田野邦彦さんは「担当ファシリテーターと生徒が一体感があり、理解が深々素晴らしい」と評価した。

WS終了後に題材に取り上げた地域のスポットの情報につながるQRコードも配布され、旅程の中で訪れることができる工夫もあった。TSJの喜舎場梓マネージャーは「みんなの力で作り上げた。修学旅行のWSも今後受け入れられるようにしたい」と抱負を語った。

(沖縄タイムス社 提供)